

東京学芸大学書道科同窓会

硯心会だより 第8号

発行
2021年 10月 1日

第四十回硯心会書展のご報告

書展部 森岡 美香(五八期)

新型コロナウイルス流行の脅威が
いまだ収まらないなかではあります
が、今年の硯心会書展は令和三年八
月十四日から二十一日まで東京都美
術館一階第四展示室にて無事に開催
することが出来ました。

本展覽会は、長きにわたり銀座・
洋協ホールで開催しておりました
が、東京都美術館に場所を移し、第
四十五回学芸書道全国展と同時開催
となりました。今までより大きな会
場になるため、出品可能な作品サイ
ズを横幅二メートル、縦四メートル
以内に変更し、大作から小品まで、
形式や書風ともに変化に富んだ書作
品が会場に並びました。また今回展
は、第三期(昭和三十年卒業)から
第六九期(令和三年卒業)までの
一二七名の会員の皆様からご出品を

いただき、前回展より出品者が五三
名増え、これまでにない最大規模の
展覽会になりました。幅広い世代の
方々からご出品いただき、充実した
展覽会になりましたことを大変嬉し
く思います。昨年逝去されました六
期江口大象氏の遺作および三期井上
輝夫氏の遺作もご出品いただきまし
たこと、厚く御礼申し上げますこと
もに、心よりご冥福をお祈りいたし
ます。

本年は第四十回という節目の展覽
会でした。これを記念して、特別企
画「東京学芸大学草創期教官の書」
を展示いたしました。東京学芸大学
に書道科が創設された当時の教官の
作品、ガリ版刷りの出版物、記念の
写真、年表パネル等が展示されまし
た。書道科の草創期の様相が窺える

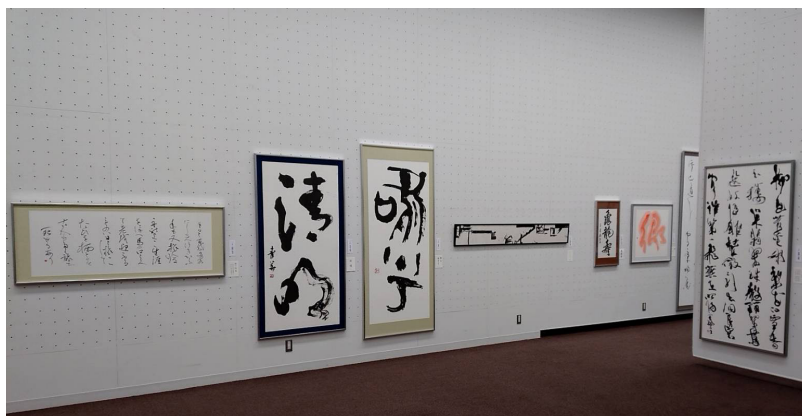
貴重な資料を前に、熱心に鑑賞して
くださるお客様が沢山いらっしゃい
ました。東京学芸大学書道科の原点
を振り返ることにより、約七十年近
く続く同窓会の歴史を受け継いでい
く責任の重さと母校を誇りに思う気
持ちはより一層強く感じることが出
来ました。

また特別展示として卒業二十周年
の節目を迎える第五十期(平成十四
年卒業)の有志展を行いました。出
品者は五名、各々一点から二点の出
品で計六点の展示となりました。学
生当時の思い出の写真や卒業後二十
年目を迎える心境や同期に対する思
い等が書かれた文章を各自添えてく
ださいました。このような若い期の
作品発表の場が、今後の硯心会の更
なる発展に繋がることと期待してい
ます。

コロナ禍の中、会場にお越しいた
だけなかつた方も多くいらつしやる
と思います。昨年に引き続き硯心会
ホームページにて会場の様子や出品
作品を見ることが出来ます。少しま
も会場の雰囲気味わっていただき
たく存じます。ぜひご覧ください。

新天地で節目の展覽会を終え、新
たなステージへ一歩踏み出しました。

これからも魅力ある展覽会を目指し、
硯心会書展を盛り上げていきたいよう
役員一丸となり活動していきたいと
思います。何卒、ご支援ご協力のほ
どお願い申し上げます。



会場の展示の様子

会場の様子(動画)
や出品作品写真は
以下ホームページか
ら視聴可能です。



第四十五回学芸書道全国展の「報告」

学芸書道全国展部部长 西澤 憂 (四九期)

本年の第四十五回学芸書道全国展には、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症流行による社会の混乱の中にも関わらず、一三二団体、九二八四点出品と、多くのご参加をいただきました。厚く御礼申し上げます。

七月二十二日に東京都美術館審査室で開かれました審査会におきまして、慎重かつ厳正な審査をおこないました結果、各個人賞、各団体賞が決定いたしました。

今年度は大変残念ではありますが、感染症拡大防止の観点から、表彰式を中止いたしました。

受賞された皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、ご出品いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

本年度より、東京都美術館での開催となりました。全国の小学生・中学生・高校生の作品は、コロナ禍においても力強く練度の高い作品が多数出品され、東京都美術館という会場にふさわしい作品を展示することができました。

また、本年度より文部科学大臣賞の

授与が許可され、浜松学芸高等学校の布目華穂さん(高三)が受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

第四十六回学芸書道全国展については、次の「本部事務局より連絡」の通り計画しております。最終決定ではありませんが、お伝えいたします。

会場の様子(動画)や受賞作品等は以下ホームページから視聴可能です。



本部事務局より連絡

二〇二二年度の「第四十六回学芸書道全国展 併催 第四十一回硯心会書展」は以下の日程で開催予定です。

会期 八月二十三日(水)～三十日(水)
会場 東京都美術館二階第四展示室
硯心会書展締め切り 六月三十日必着
学芸書道全国展作品受付 七月中旬

(具体的な締め切りは検討中)

本年度開催を延期しました「拡大同窓会」については、新型コロナウイルス流行の状況を見極めながらではありませんが、二〇二二年度に開催予定です。

第四十回硯心会書展特別企画

「東京学芸大学書道科草創期教官の書」展の報告

特別企画実行委員会副委員長 岡野屋宏一(三九期)

ともに節目を迎えた、第四十回硯心会書展と第四十五回学芸書道全国展。本年から両展覧会が「併催」の形で、上野・東京都美術館に会場を移し新たな一歩を踏み出す。これを記念して、東京学芸大学書道科の開設当時から歴史を振り返るべく、特別企画として「東京学芸大学書道



会場の展示の様子

科草創期教官の書」と題し、両展と同時に開催いたしました。また、その図録として「記念誌」を上梓しました。準備には一年間をかけ、特別企画実行委員会は、硯心会理事長、事務局長とともに定期的に会議を持ち、適材適所にて役割分担をして準備を進めました。展示する先生方の作品の選定、借用、必要ならば表装の手配等々。草創期の諸先輩方へは、保存されている当時の史料の有無の問い合わせ、さらに「寄稿」のお願い等々。大変貴重な史料も多数寄せられました。果たして、本展覧会により、当時の書道科の清新な息吹、高邁な理想をひと感じ、心揺さぶられるところとなりました。

おわりに、本展覧会開催にあたり、ご支援、ご協力をいただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

特別企画図録『東京学芸大学書道科 草創期教官の書』購入希望の方は以下のいずれかの方法にてお申し込みください。



①郵送またはメールによる注文

事務局・草津まで、いずれかの方法にてお申し込みください。メールの場合は、受け取り後返信をいたします。(住所、アドレスは最終ページをご参照ください)

②ホームページからの注文

硯心会ホームページ中の「図録販売」よりご注文いただけます。

図録は一冊一〇〇〇円(税込)、送料三七〇円(二冊以上購入で送料無料)で販売いたします。

二〇二〇年度総会報告

日時二〇二二年八月二十一日(土)

場所東京都美術館講堂

1 長野秀章会長あいさつ

2 加藤泰弘理事長あいさつ

3 報告事項

① 第四十回硯心会書展

(殿村美奈子部長)

出品者数 一二七名(五三名増)

来場者数 約八二〇名

▼主な変更点

- ・作品集表紙を二色刷りにし、印刷部数を二〇〇〇部にした。

- ・作品集を一頁三点掲載、題名・サイズ掲載とした。

▼主な反省点

- ・作品展示の高さをもう少し上にする。(コンセントに被らない高さ)
- ・作品箱の収納場所を事務室にする。
- ・キャプションが汚れないタイプのも

東京学芸大学の書道関連学部・大学院の現況

加藤 泰弘

東京学芸大学教育学部の書道専攻は、中等教育教員養成課程に位置づけられ、学生定員は一学年二〇名となっております。令和三年三月に、六十九期生が卒業し、高等学校の書道の教員、中学校や高等学校の国語の教員、小学校の教員として、七割前後が教職に就いています。

大学院教育学研究科については、修士課程の書道教育コースが廃止され、令和元年四月に教職大学院教育実践専門職高度化専攻教科領域指導プログラムに書道教育サブプログラムが設置されております。書道教育サブプログラムの総論・書道史等の研究を中心に行うのではなく、教員としての総合的な資質・能力を高め、有為な書写・書道の教員を育成するための実践的研究を行う場となっております。令和三年三月に始めて三名の修了生を輩出し、四月から、書道の教員として生徒の指導に当たっています。また、博士課程は、連合学校教育学研究所芸術系教育講座の中に書道に関わる研究分野が位置づけられています。

皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症が終息しましたら、書道専攻展、学年展、卒業制作展等に是非ともご来場いただき、ご指導賜りますれば幸いに存じます。

のにする。

- ・目録への掲載を題名に変更する。

② 第四十五回学芸書道全国展

(平倉和則リダー)

出品団体数 一三二団体

(一七団体増)

総出品点数 九二八四点

(一五六六点増)

文部科学大臣賞の授与が認められた。

▼主な変更点

- ・小金井郵便局留めによる作品受付とした。

- ・審査は東京都美術館審査室にておこない、例年以上に多くの先生方に審査いただけた。

▼主な反省点

- ・受賞者一覧パネルが小さかった。
- ・理事長賞と奨励賞の賞札は複数必要か。

- ・一枚の半紙・半切に複数の紙を糊で貼った作品について、表装の際に歪みや折れが生じてしまっている。対応を検討したい。

- ・複数団体から同一の児童生徒が出品する場合について、どのように対応するか検討していきたい。

③ 特別企画展

省略

④ 三國展

来年度に延期となった。

4 審議事項

①役員改選

新規任命（理事長任命）

硯心会書展部 齋藤 暁

学芸書道全国展 後藤花奈江

②第四十一回硯心会書展

スケジュール

会期 二〇二二年八月二三日（火）

～三十日（火）

九時半～五時半（入場十七

時まで）最終日十五時時まで

会場 東京都美術館二階第四公募

展示室

作品締め切り 六月三十日

搬入 八月二十二日九時半から

搬出 八月三十日十五時から

③第四十六回学芸書道全国展

会期、会場等は、硯心会書展と同様。

スケジュールは今後検討していき

たい。

④三國展

来年度は北京および東京での開催

としたい。

5 質疑応答他

・作品集掲載の作品と展示作品が異なる出品者がいた。いいのか。

↓対応を検討していきたい。（硯心

会書展部）

・名票、目録、作品集等での「期」の

表記について、「〳年卒業」または

「〳年入学」というのがないと、一

般の来場者にはわからないのでは
ないか。

↓どのようなかたちがいいか、検
討していきたい。（硯心会書展部）

・展示については、安全面等を考
慮するならば、展示業者を入れる
べきではないか。

↓今年度の会計報告を参考に検討
したい。

千葉硯心会の活動報告

事務局 石井昭正（三二期）

千葉硯心会書作展のご報告

新型コロナウイルスの影響で、令

和三年度に繰り越された「第四十九

回千葉硯心会書作展」。緊急事態宣言

下の八月三日～九日、県立美術館第

四室にて、ようやくの開催となりま

した。出品者は千葉県在住・在勤の

二八名。それぞれの一年間の研鑽の

成果が窺える力作が揃いました。

コロナ禍・酷暑・台風上陸等、数

多の悪条件にも拘わらず、五百名近

くものご来場を賜りましたことに深

く感謝申し上げます。

千葉硯心会書展は、お蔭様で来年

度を持ちまして、早くも五十回の節

目を迎えることとなります。来年度

は記念展として、より充実した展覧

会にしていきたく思います。皆様

のご支援とご協力をお願いいたしま
す。



埼玉硯心会の活動報告

事務局 杉山恵美（二五期）

八月九日～十二日の日程で開催予

定でした第四十三回埼玉硯心会書作

展は昨年に続き、残念ながら中止と

なりました。今年度中の研究会等未

定です。

四十三回展は令和四年七月三十日
（土）～八月二日（火）埼玉会館第三
展示室で開催予定です。

一日も早く、埼玉硯心会の活動が

再開出来ることを願っています。

群馬硯心会の活動報告

事務局 永田 明（五八期）

予定していましたが第十五回群馬硯

心会書展は、新型コロナウイルス感染拡大防

止のため、延期となりました。

個展・同期展等開催報告

加藤東陽の書II

東京学芸大学名誉教授で本会顧問

の加藤祐司（号・東陽）の書活動

五十年の節目にあたり、第五十一回

千紫会万紅展に併せて開催された。

会期 六月二十四日～七月四日

会場 国立新美術館二階

下谷洋子書展

—上州の韻うたきこよなく・かな—

二二期の下谷洋子が十年ぶりの個

展を開催した。地元である上州群馬

を舞台とした詩歌を揮毫した卷子、

屏風、軸等新作五十点余りを展示し

た。

会期 七月十五日～二十五日
会場 和光ホール

高橋敏行書作展

～来たみちゆく道～

二八期の高橋敏行が五回目個展を開催した。篆、隸、楷、行、草書、仮名、漢字かな交じり書など多彩な作品三十一点あまりを展示した。

会期 七月十五日～二十五日
会場 船橋市民ギャラリー

横山延子 書・日本画展

―遊びをせんとや―

二二期の横山延子が青山にて個展を開催。「日本語の美しい言葉と共に、見る人に種を蒔き、その人の心に花を咲かせられたら。とらわれる心を自由にと、書の筆と墨で絵を描く。」

会期 八月二十九日～九月三日
会場 Gallery Concept21

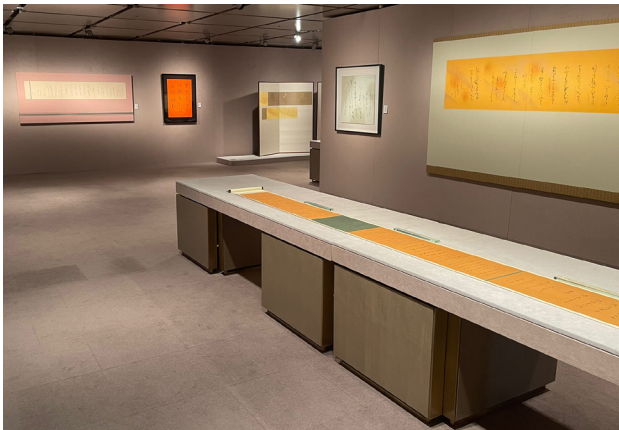
書・六人展

～鬼頭墨峻・石飛博光・船本芳雲・

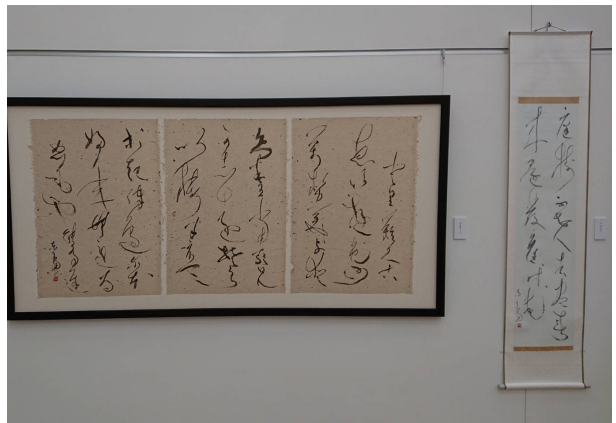
辻元大雲・仲川恭司・柳碧辭～

十二期石飛博光、十四期辻元大雲が出品する連立個展が開催された。

会期 九月一日～七日
会場 上野の森美術館



下谷洋子書展会場写真



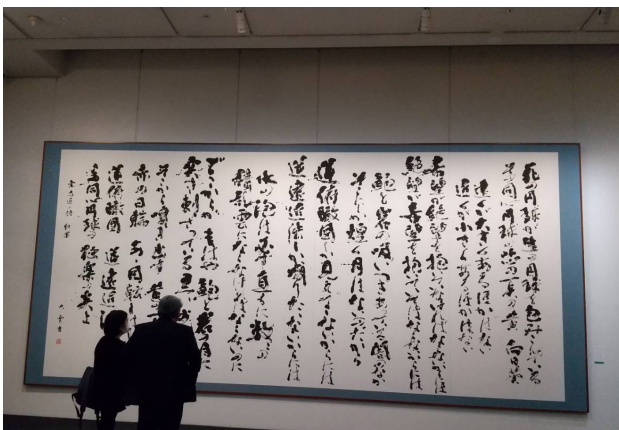
加藤東陽の書Ⅱ会場写真



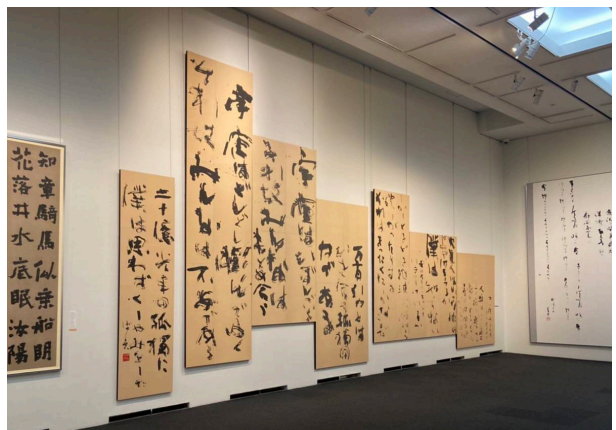
横山延子書・日本画展会場写真



高橋敏行書作展会場写真



書・六人展会場風景



会員動向

十八期小倉釣雲、十一期真下京子、山本素竹、酒井重良が発起人となり、五期北爪隆の没後十六年に際し、『北爪隆のめざしたもの——書家として教師として』が刊行されました。

北爪隆は、一九三五年群馬県前橋市生まれ。一九五三年に東京学芸大学に入学。卒業後、北海道の教員を経て、群馬県の高専学校に赴任。一九九三年に群馬硯心会会長、発起人となり、第一回群馬硯心会書展を前橋市民文化会館にて開催する。二〇〇五年逝去。

同書は、作品、資料、関係の方々 の寄稿文によって構成されています。氏の書家として、教師としての素晴らしさが伝わってきます。



北爪隆氏

個展・同期展開催案内

これから開催予定の硯心会会員による個展・同期展の情報を紹介いたします。新型コロナウイルス流行の状況により、掲載内容が変更となる可能性があります。

「筆とマウス」夏生風彩・藤巻洋紀

五九期黒田夏生とグラフィックデザイン―藤巻洋紀による二人展会場 渋谷ヒカリエ八階 CUBE 会期 二〇二二年十月二十一日

(木) 十一月三日(水・祝) 十一時～二十時(最終日は十九時まで)

ギャラリートーク

十月二十四日(日) 十四時～「全作品が合作となっておりますので、通常の二人展とは違う楽しみ方ができます。制作秘話を聞きにギャラリートークにも是非お越し下さい。」

左 出品作



濱崎道子書展―龍虎竹林を翔る―

十三期の濱崎道子が横浜市都筑区大柵西にある「大塚歳勝土遺跡公園内」の「都筑民家園」(江戸時代の民家「旧永澤家住宅」)で個展をおこなう。

会期 二〇二二年十一月六日(土)、七日(日)

十時～十七時

会場 都筑民家園

(都筑区大柵西二番大塚歳勝土遺跡公園内)

TEL 〇四五・五九四・一七二三

横浜市営地下鉄「センター北駅」徒歩八分

イベント「書の大字揮毫」

十一月六日(土) 十三時～十四時

十一月七日(日) 十二時～十三時

❖ 展覧会(個展、同期展)の開催予告、開催報告、出版等の情報を事務局・

草津までお寄せください。メールでご連絡が返事がない場合はお手数ですが郵送等でお知らせください。次号で紹介させていただきます。

編集後記

❖ 総会で新規部局員二名を加えた新役員・部局員が承認されました。より会員相互の交流がはかれるように各事業をおこなっていきたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

今年度開催予定だった拡大同窓会も、新型コロナウイルスの影響を受け、延期となってしまいました。来年度は開催できる状況になっていてほしい、と願っています。新型コロナウイルス流行が収まり、開催できる際には、ぜひともお誘いあわせの上、ご参加いただければ幸いです。まずは、ご自愛ご専一にお過ごしください。

発行 〇硯心会本部 ☎184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学 加藤泰弘研究室
編集 〇硯心会事務局 ☎124-0011
葛飾区四つ木4-4-12 草津祐介
メール usk932@hotmail.co.jp
硯心会HP <http://kenshinkai.grupo.jp>

硯心会HP

